

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくタッチ			
○保護者評価実施期間	2026年 9月 30日 ～ 2026年 10月 22日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2026年 10月 1日 ～ 2026年 10月 9日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 10月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間の連携がしっかり取れており、情報共有が毎日開所前と退所後に行われていること	・職員間でも日々積極的にコミュニケーションを取り合い、気になることがあったら都度相談し合える環境を整えている。 ・支援内容や子どもたちの様子について、日常的に情報共有を行い、それをもとに具体的な支援方法を検討・実行するようにしている。	・今後も継続し、より子どもたちに寄り添った支援を提供できるよう努めていく。 ・職員の資質向上の為、研修の機会を充実させていく。
2	・事業所側で考えた活動だけでなく、子どもたちが主体的に考えた活動も積極的に取り入れていること	・活動スケジュールに余白を残すことで、自分がやりたいことを考え、提案する機会を設けている。 ・提案したことが実行できるよう、ある程度想定したうえで日頃から必要なものを準備したり、柔軟に対応したりしている。 ・長期休暇時に社会的体験（外食体験やお買い物体験）等を実施している。	・引き続き子どもたちが主体的に考えた活動に加えて将来を見据えた社会的体験（特に今年実施できていない公共交通機関の利用の練習）を企画し、自立練習の機会を作っていく。
3	・職員間の情報共有をもとに見えてきた課題や、個別支援計画に沿った個別・小集団のSSTを考え、日々実践していること	・個別のSSTでは主にワークシートを用い、他者理解を深めたり自己発信の練習を行ったりしている。 ・小集団のSSTでは、コミュニケーション能力の向上に加え、感情をコントロールする練習や個別で取り組んでいる自己発信・他者理解の実践練習を行うため、対戦型や協力型のゲームの他に話し合い（ディスカッション）の機会も設けるようにしている。	・より質の良いプログラムを提案するために、職員のSST研修など必要な技術を学べる機会を作れるよう検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の他の子どもたちと交流する機会が少ないこと	・交流を行ってみたいとは考えているが、児童館との連携が図られていないのと、当事業所を利用していることを知られたくない方々への配慮も必要なため、実現できていないのが現状。	・まずは児童館・児童クラブの方と連携を図るのと、利用者のニーズを確認し対応を検討していく。 ・地域の公共の遊ぶスペース（公園・室内施設）での活動を通し、地域の子どもたちと関わる機会を設けていく。
2	・利用者の卒業後の進路や進学先・就職先などに関する情報が十分に得られていないこと	・進路に関する情報を収集する機会や、学校・関係機関との情報共有が十分になされていない。	・学校や相談支援事業所等との連携を深め、進学・就労・福祉サービスなどの進路情報の収集に努める。また、保護者のニーズに応じて情報提供を行い、利用者が将来の進路を考えるための支援につなげていく。
3			